
高校生活って...。。。。

權

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高校生活って……。

【Nコード】

N1123A

【作者名】

權

【あらすじ】

高校デビューを果たした女の子の（恋の？）お話

(前書き)

興味を持ち、初めて書いてみたのでなんか意味わからないトコもありますが(口)

興味を持ち初めて書いてみました。まだまだ未熟ですがア！！呼んで見てください。そう……。あれは、今カラ1年前の4月の事。。。私は、中学を卒業し、市内にあるS高へと入学した。そこから私の何かが変わったのだ。

私が通っていた、O中からはこのS高に来る生徒は私を含め10人いるかいないかだと聞いた。

正直、私は中学の時は結構暗く、つまらない人生を送って来たと思う。

軽いイジメもあった。

そんなくだらない人生から解放されるのかと思うと……ハッキリ言うて気が楽になった。

私は中学が嫌いだった。だから高校に行き、違う人生を歩める事がまず嬉しかった。

く4/8く

S高入学式。

その日私は、中学と一緒に、まあ、わりかし仲の良かった清香さやかと一緒に登校した。

S高は家から自転車で20分くらいのところにあっただ。

その日は車だったので5分やそこらで着いた。

知らない顔ばかりだ……。なんかいい気分！いつもの嫌な顔がない。そうだ！クラス発表もこの日だった。

『清香く、クラス同じかなあッ?!』

『同じだといいいね。マジ不安だよオ』

こんな会話の中クラス発表を見た。私は5組。清香は7組だった。そして先輩に案内され私は自分のクラスに言った。

私の席は前から2番目。

前は男の子、啓介だ。

あつ、S高は共学だからね！男子はあつとう的少ないけど…。

そして両隣は女の子で、志穂と友加。

志穂は私が1番最初に話した子。

今でも良くしゃべる。

後ろも女の子で、加奈。

この子はレディースに入っていた、だの、援交してる、だの。

いろんな噂があった。けど、私は中々好きだ。笑

そして入学式は始まり、よくわからないまま終わった…。

その日は何事もないまま過ぎた。《なんか、つまらない》正直な気持ちだ。

そんなのもつかのま……次はオリエンテーション。

クラスの仲を深めるために2泊3日で行くらしい。

馬鹿馬鹿しい…って思った。

でもまんざらでもなくはしゃいだ。

慣れてくると楽しいもんだ。

私はクラスでも進んで騒ぐ側になっていた。

中学では100000%考えられない事だった。

オリエンテーション1日目の夜1組の男の子に呼び出された。

そう、なぜか私は告白されていた。

どこの誰かも知らない。

第一好みじゃない。

当然断った。

…が、その瞬間。

私の唇に何かが触れた。

まだ誰も触れた事もない唇に。

というアクシデントもありながら中々楽しく過ごせた。毎日毎日が楽しかった。

4月下旬。そろそろ部活も決めなきゃいけない。私は同中の由梨江ゆりえにダンス部に入ろうと誘われていた。別に入りたいのもなかったし…《いつか》そんなノリで、とりあえず仮入部した。

今日はダンス部を見に行く日。ちよつとワクワクしながら放課後を待った。

放課後：早速行ってみた。

女子はもちろん、男の子もいた。

私は高校に入り、まず考えてなかった事。

……それは男女の交際。

私はいつしか男子の目を気になるようにもなっていた。

そう。恋をしたのだ。ダンス部の人に。

『權！あの右の人かつこよくなあい！？』

由梨江が言ってるのは私が一目惚れをしたあの人だ。

『……うん！なに、なに？まさか一目惚れえ？？』

ふざけて言ってみた。

『ええー、でもめちゃくちやタイプ！！！！』

まずい……。

『マジい？頑張っちゃいなよっ』

何言ってるんだ、私は……。

下手したら恋をしたのはこの時が初めてだったのか……。

なんだか言葉じゃ言い表わせない気持ちだ。

部活が終わり、ロッカーで着替える。すると……な、なんとあの人

話かけて来たの……！！

『ねえ、ねえ。仮入部にいたよね？ダンス部に決めたの？』

『あ、いや。まあ、99%は決まったかな。』

『マジで？俺7組の康雄^{やすお}。』

こっちが1組の道法^{みちのり}。よろしくな！アド交換しない！？』

私が一目惚れした方は1組の道法の方だ。

通称ミツチー。

私は一瞬へげっ。

1組かよ。』と思った。彼はかなりシャイだ。ずっと顔伏せたままだった。そしてもう1人。康雄（通称ヤス）はかなり明るくムードメーカーだ。

一応2人のアドをgetした！夜一応2人にメールを送った。
ヤスには

『今日は話かけてくれてありがとう！もしダンス部に入ったらガンバ
ろうね 』

送信！つと…。

そしてミッチーには…

『今日は話かけてくれてありがとう！ってミッチーくんとはしゃべら
なかったね シャイなの？まあ、私サバサバした性格だしっ（笑）
普通に話そうね 』

……………送信！。。

返事くるかな…。

男の子って返事早いのかな。

そう。私は男の子とメールするのも初めてだ！なんかドキドキする。
ヴヴヴヴヴ……………携帯のバイブが鳴った！！

ミッチーくんだ！！

『うん！俺かなりシャイボーイだから 權はサバサバ系か じゃあ
話しやすそうだ 』

ああ…和む……………（*´、*）

私やっぱミッチーくんに一目惚れしたんだ…。

『そう（＾。＾）まあ、適当話しかけてやってくれ！！（）（）

！！ミッチーくんはドコ中だったの？』

『話しかけてやってくれ！！って（笑）權は面白いね 俺はY中だ
よ！權は？てかそのあだ名に君付けはどーかと思うよ（笑）』

『こんなキャラだから 早く慣れてね 私はO中だよ マジ？じ
ゃあミッチーねッ 』

なんか照れる……………自然とニヤけちゃうのはなんでだろ。

ふう… 〓3こんなそんなどでその日は20件近くメールをして寝てい
た。

私は恋をした。

初めて一目惚れしたんだ。

あの日から放課後がやけに待ち遠しい。
すっごいドキドキする。

この気持ちを恋って言うのかな……。

とにかく私はミッチーが好きだ！でもこれはふつうの恋と違った。

『ねー、權！私やっぱり道法くん好きっ！！權協力してくれるよね！？』

………

『あたりまえじゃん。』

私は力なく答えた。

どーしよ 内心そう思ってた。でも友達失うのは嫌だ。

『……い……かい……權！！？』

『ん、ん？何？』

『なあによ。權らしくない！』

私の恋の行方は………。
部活の時間。

『ねー、權！今日道法くん達遊び誘おうよっ！ねー！お願い！！』

《自分で誘えよ》

なんでか内心イライラしてた。

部活終了後。

『ミッチー、ヤス。この後ヒマ？』

『んー、ヒマだよな！なんで？』

『この子。由梨江。みんなで遊ぼうって提案してくれたの。だから
どうかなんて。』

由梨江はペコリと可愛らしく頭を下げた

『いいね！遊ば遊ば』

ミッチーも頷いてる。

『じゃあ着替えたら行こう』

……駅前……

『權！權！プリ撮りたいなあ……。』

はあ……。自分で言えよ。

『ねえねえ！せっかくだからプリ撮ろっよ』
『いいね！撮る撮る！』

なんで？なんで、好きな人の前なのにこんなにイライラするの？恋
って分かんない。なんかムカつく。

（5/18）

なぜだろう。

気付くと毎晩ミッチーとメールをしてる。

無意識にメールしたくなる。

メールしてると和む。

やっぱり好きだ。

由梨江には悪いけど。

気持ち伝えたい。

なんでだろ。

今私はミッチーと恋愛話をしている。

ミッチーは今まで付き合った事がないらしい。

もちろんキスもない。

私は……中1のとき3日間だけ付き合った人がいた。

何もなく別れたけど。キスは……アイツに奪われたんだっけ。

ミッチー……付き合ったら楽しいのかな。ミッチーは私の事どう思っ
てるの？

『ミッチーは私の事どう思ってる？』

送信

無意識に送っていた。

返事は来ない。

ヴヴヴヴヴ……………。

電話だ。ミッチーカラ。。

『…はい』

『ごめん。突然』

『…うん……………』

声が震える

『あの、メールの返事。』

『ああ、うん』

『ごめん』

泣きそうだ

『いいよ。私こそ急にごめんね。』

『權が嫌いなんじゃない。むしろ…』

何？好きとでもいいそんな勢いだね。言い訳は聞きたくない。

『何よ。』

『むしろ……』

『もういいよ。』

『あつ、ちがつ』プツツ…

切っちゃった。

なんで…切っちゃったんだろ。

明日から会いづらい……。でも時間は止まらない。

く5/19く

放課後は来た。

だが、その日はいつも通り何事もな〜く終わった。

…と、思った。

いつも通りロッカーで着替える。…すると、ミッチーだ。何か変な

事を言ってる。

『話したい事がある』

《私はないよ。もう話は済んだじゃん》

そう思いながらも私は付いてった。

『…昨日は』

『昨日はごめんね！勝手に切っちゃって！』

『あのさ、俺權の事好きだよ！』

は？何言ってるんのあんたは。

ミッチーは黙っている私を見て言った。

『一目惚れだった。』

でも權は明るくてなんか…俺とはぜってえ合わねえ。

ぜってえ好きになんかなってくんない。
それしか考えられなくて。

そしたら權が好きだって言ってくれて。
正直マジで嬉しかった。

俺の大好きな權は、俺の事を好きになったって。

でも…俺見た目の通りこんなだし…權の事幸せにする、自信がな
かったんだ。

だから、自信もてたら改めて告ろう。
そう思った。

けど、もしその間に權が他の人好きになったら…他の人にとられた
らって…考えるだけで、なんか、なんてゆうか…苦しくて。
やっぱり気持ち抑えきれなかったんだ。

だから、今こうして気持ち伝えた。こんな俺だけ…付き合ってく
れるかな？」

私は泣いていた。
嬉しかった。

私をここまで思って暮れる人がいるんだ…って。

5/19私と道法は付き合った。

その日は眠れなかった。そして私は重大な事を忘れていた。そう、
由梨江の事だ。

次の日由梨江に話そうと思った。
けど、話せなかった。

その次の日も次の次の日も次の次の日も……。

バレル前には言いたかった。が…、由梨江は感付いていた。
こうなったら仕方ない…全て話そう。

そう思い全部を話した。

由梨江は以外にも素直に受けとめてくれた。

そして私と道法のラブラブ高校生活が始まったのは言うまでもない。
ミッチーの初キスの相手は私だ　付き合って2ヶ月目……それは

7月の暑い時で。

夏祭りもあつたから私はミツチーの家に泊りに行った。

その日私達は初めてHをした。

お互いが初めての事でとても緊張したし恥ずかしかった。

まるで気持ちいとも言えなかった。

でも初めてがミツチーで良かった。

私はそう思った。

ホントに幸せだった…がその生活は3ヶ月と言う短い期間で幕を閉じたのであった。

(後書き)

どうでしたか？第2弾も書いてみたいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1123a/>

高校生活って...。。。

2010年10月28日03時26分発行